第3講

人文科学系（3）
多様性の尊重と困難さ

チャプター1

資料読解

生徒メモ欄

　次の文章は，ブレイディみかこ著『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』の「4　スクール・ポリティクス」の一部と，その内容を理解しやすくするためにこの文章の背景を記したものである。

文章の背景

1　以下は，福岡県出身で，アイルランド人と結婚した著者と，夫婦の間に生まれた「息子」との会話である。一家は，イギリスの地方都市で，住民間の経済格差が顕著な地域に住んでいる。「息子」は，かつてカトリック系の小学校に通っていたが，中学では白人労働者階級の子どもたちが多く通う学校に通っている。

2　会話には，「息子」の2人の友人が出てくる。ティムは，地元生まれ地元育ちの白人だが，労働者階級家庭出身で，家庭の経済状態は悪い。他方，ダニエルはハンガリー移民(注1)だが親がレストラン経営で成功し裕福である。ダニエルは父親のアジア人に対する差別的態度を見て育った。（文章の背景はここまで。以下，本文に入る。）

3　冬休みが終わり，二学期が始まると雨降りの朝が続いた。うちはわたしが自動車を運転しないので，雨が降っても徒歩通学だ。が，学校に着いたら制服のズボンの裾がずぶ濡れのうちの息子に同情し，友人たちが一緒に車で登校しないかと誘ってくれているようだ。

4　坂の上の高層団地に住むティムは，雨がひどく降る朝は

一番上のコワモテの兄が（盗難車という噂もある）車で学校まで送ってくれるようで，ちょうどうちの前の道を通っていくからと二日ばかり連続で息子を一緒に乗せて行ってくれた。ところが，その噂を聞きつけたダニエルが，うちのBMWに乗っていけと執拗に息子を誘っているらしい。
「行きはティムのお兄ちゃんに送ってもらって，帰りはダニエルのお母さんっていうのがベストなんだけどなあ。ティムのお兄ちゃんは僕らを送ったら夕方まで仕事だから，帰りは迎えに来てもらえないし」と息子は悩んでいる。
「だけど，帰りだけでいいなんて言い出しにくいから，ダニエルのお母さんに送ってもらうなら行きも帰りもってことになるけど，最初に誘ってくれたのはティムだし，そっちを裏切るわけにもいかない」
「朝はティムのお兄ちゃんで，帰りはダニエルのお母さんがまとめて送ってくれたら一番合理的だけどね」
　わたしが言うと息子はぶんぶんと首を振った。
「絶対に無理。彼らは仲が良くないから，なんか僕は2人の板挟みになっちゃって」
「友達から取り合いされてんの？　人気者じゃん」
　と笑うと，息子が真剣な顔つきで言った。
「そういうんじゃないんだよ。あの2人，互いにヘイトをぶつけ合っている」

5　ダニエルは，ハンガリー移民の両親を持つわりには移民に対する差別発言が多く，うちの息子とも最初はそれで喧嘩したりしていたが，一緒にミュージカルに出演したことをきっかけに仲良くなった。以降，まじめなうちの息子が彼のレイシズム発言を口うるさく注意するので，最近ではあまりどぎついことは言わないらしい。

6　ところが，界隈で「チャヴ(注2)団地」と呼ばれる坂の上の高層団地に住むティムと息子が仲良くなっているのをダニエルは快く思っていない。「あいつの一家は反社会的」とか「アンダークラスとつきあうとろくなことがない」などと言っていて，本人の前ではさすがにそういうことは言わないらしいが，偏見に満ちた目つきというのは見られている当人にはわかるものだ。ティムはティムで，「くそハンガリー人」とか「東欧の田舎者」とか人種差別的なことを言い出したそうで，顔を合わせればヤバい空気が漂うと息子はため息をついた。

7「確かに，それじゃあ一緒に通学はできそうもないね」
「うん。どうしてこんなにややこしいんだろう。小学校のときは，外国人の両親がいる子がたくさんいたけど，こんな面

生徒メモ欄

生徒メモ欄

倒なことにならなかったもん」

8 「それは，カトリック校の子たちは，国籍や民族性は違っても，家庭環境は似ていたからだよ。みんなお父さんとお母さんがいて，フリー・ミール制度(注3)なんて使っている子いなかったでしょ。でもいまあんたが通っている中学校には，国籍や民族性とは違う軸でも多様性がある」
「でも，多様性っていいことなんでしょ？　学校でそう教わったけど？」
「うん」

9 「じゃあ。どうして多様性があるとややこしくなるの」
「多様性ってやつは物事をややこしくするし喧嘩や衝突が絶えないし，そりゃないほうが楽よ」
「楽じゃないものが，どうしていいの？」
「楽ばっかりしてると，無知になるから」
　とわたしが答えると，「また無知の問題か」と息子が言った。以前，息子が道端でレイシズム的な罵倒を受けたときにも，そういうことをする人々は無知なのだとわたしが言ったからだ。

ブレイディ みかこ　「ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー」
新潮文庫

（注1）　ハンガリー移民…イギリスでは，第二次世界大戦後，東欧から移民を受け入れた。
（注2）　チャヴ…「下層民」を示すスラング。
（注3）　フリー・ミール制度…生活保護や失業保険を受給している家庭の子どもが，無料で給食を食べることができる制度。

（滋賀県立大学　人間文化学部　2021）

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター2

問題およびヒント

問題を見てみよう

本文には，「多様性はよいこと」と書かれているが，その一方で「多様性があるとややこしくなる」とも書かれている。つまり，「多様性」は尊重すべきだが，実現には困難が伴うと述べられているのである。このように多様性が尊重されつつも実現には困難が伴うということについて，あなたが知っている「多様性」の具体例を挙げて，それがどのように尊重されつつも実現に困難が伴っているのかを説明せよ。なお，本文では国籍や民族性が多様性の具体例として述べられているが，それに限らない。字数制限は設けないが，解答用紙の枠内に収めること。

生徒メモ欄

教員記入欄

解答案をつくってみよう

生徒メモ欄

教員記入欄

自己評価表

答案が完成したら、以下の表を用いて自己評価をしてみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見（主張）	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター3

答案例①

設問の事例として、女性の社会進出が挙げられる。一昔前は、女性は結婚後に会社を退職し、専業主婦として生活していくケースが多かった。しかし、近年では結婚や出産後も退職せず、夫婦共に働き続けることも珍しくなくなっている。その背景として、育児休暇制度や勤務時間の短縮等、企業の支援体制の変化が挙げられる。男性は外で働き、女性は家事や育児と、性別で役割を固定せずに個々の希望や適性に合わせられるように社会が変化してきている。

一方で、休暇制度が存在するものの男性の取得率は決して高くないのが実情である。取得による長期休業により、復帰後に居場所がなくなる可能性、育児のための休暇を取得することを好ましくないと思っている上司や同僚などから取得を拒まれる等が原因だ。家事育児は分担できるが、出産は女性にしかできない。したがって、出産に関連した休暇制度の利用について、男女を問わず前向きに利用できるような仕組みを作ることを、もっと重要視する必要があるかと思う。

形骸化している制度に対し企業への批判もあるが、現実問題として、長期間に渡り離脱をしてしまう可能性がある既婚女性を重要なポジションに任命するリスクを回避したいと考える企業に一定の理解を示す必要がある。よって、尊重されつつも現実問題として実現な困難な事例として考えられる。

(554字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例①を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S A B C F
意見(主張)	設問と意見との関係	S A B C F
	独自性・独創性・発展性	S A B C F
理由(根拠)	事実に基づいた論証	S A B C F
	重要性・問題性	S A B C F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S A B C F
	簡潔な記述	S A B C F
表記・表現	誤字・脱字	S A B C F
	段落の設定	S A B C F
	制限字数	S A B C F
	文体の統一	S A B C F
	表現技法	S A B C F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター4

答案例②

私の知っている「多様性」の具体例として、「発達障害グレーゾーン」と認定された子を例に考えてみる。

教育実習で幼稚園に行った姉の話によると、担当したクラスに対象の子がいたそうだ。発表会の時、その子に合わせた出し物になり、他の児童の保護者は必ずしも好意的ではなかったという。しかし、子どもたちにとっては「みんなで協力し1つのことをやり遂げる」「お互いできないところを支え合う」といった体験につながり、保育士達たちも子どもたちが最後までやり遂げられたことに、感動したそうだ。

この話を聞き、私は自分の幼少期はどうだったかを振り返ってみた。確かにクラスにはそのような子がいたが、先生がその子に合わせ指導をしていたかというと決してそうではない。私自身もその子のことがよく分からず無意識に距離を置き、それがまた悪いことをしているようにも感じていたのを思い出した。

このことから、多様性の世の中だからこそ、お互いに何ができて、何ができないのか、小さい頃から理解し合うことが重要ではないかと思う。「多様性を受け入れる」ことは「特別扱い」ではなく、それが個性の1つだと周囲も理解し接していくことが大切だ。安心して一緒に社会で過ごすためにどういう手助けが必要なのか、お互い足りないところを補えるようにしていきたい。子どもの頃からそのような取り組みが当たり前になれば、大人になってからも様々な「多様性」を寛大に受け入れられるようになると思う。

(607字)

生徒メモ欄

教員記入欄

評価してみよう

答案例②を、以下の表を用いて評価してみましょう。
5段階評価の基準は、巻末のルーブリックを参照してください。

設問の理解	出題の意図および背景の理解	S	A	B	C	F
意見（主張）	設問と意見との関係	S	A	B	C	F
	独自性・独創性・発展性	S	A	B	C	F
理由（根拠）	事実に基づいた論証	S	A	B	C	F
	重要性・問題性	S	A	B	C	F
論理性・簡潔性	適切な論理展開	S	A	B	C	F
	簡潔な記述	S	A	B	C	F
表記・表現	誤字・脱字	S	A	B	C	F
	段落の設定	S	A	B	C	F
	制限字数	S	A	B	C	F
	文体の統一	S	A	B	C	F
	表現技法	S	A	B	C	F

生徒メモ欄

教員記入欄

チャプター5

レベルアップのための読書案内

本講で学んだことを元に、さらにブラッシュアップするための
おすすめの書籍情報を知り、その書籍の読み方を学びましょう。

講義メモ欄

生徒メモ欄

教員記入欄